



鶯 鶯
伊 達 家

郷 土 の か ぜ

仙 台 市 民 図 書 館 郷 土 資 料 コー ナー か ら

『 探 し も の、い ろ い ろ 』

平 成 29 年 度 郷 土 担 当 佐 々 木 恵 美

さまざまなお問い合わせを受けるレファレンス・カウンターですが、印象に残っているものの一つに「昭和 40 年代頃河北新報に連載された書籍化されていない小説を探している」というケースがありました。

掲載期間の具体的な年月日は不明、小説のタイトルも不明、作家名のみが手掛かり…？ 参考図書の文学のコーナーに並ぶ人名辞典をあらっても代表作の記述しかなく…インターネットで検索しても作家の情報自体が少なく…お客様は「河北新報のマイクロフィルムで確認します！がんばります！」…と。年月日が不明な新聞記事をマイクロフィルムで探すのはかなり大変な作業になるので、せめて少しでも絞り込むツールを探し続けてみました。

そして…、ありました！郷土資料の「河北新報の百年」の巻末【資料編】に、“主な連載小説”の項目が。タイトル・作家名・掲載年月日も記載されており、一気に解決です。

あれは、図書館勤務初年度のこと。「本になっていない小説」、「マイクロフィルムや郷土資料でなければ辿りつけない情報」などの存在に新鮮な驚きを感じつつ、各種資料の特性を知る良い経験をさせていただきました。

※この調査には使用できませんでしたが、『新聞小説史年表』高木健夫 編 国書刊行会 1987 年 R910/シには、明治 8 年から昭和 30 年までの新聞の小説を採録しています。

■ 資 料 紹 介

『江戸の科学大図鑑』太田浩司 他 監修 河出書房新社 2016 年 R402/エ

大変興味深い資料が出版されました。冒頭に「江戸時代は慶長から慶応まで、西暦では一六〇三年から一八六八年で、ヨーロッパではケプラー、ガリレオなどによる近代科学の黎明期に相当し、この時期から日本と西洋との交通が始まった。ポルトガル人が種子島に漂着し鉄砲を伝えたのが天文十二年（一五四三） フランシスコ・ザビエルが布教のために来日すると西欧科学と西洋器物の急激な移入が始まった」とあります。

本文は第 1 章から 11 章まで分かれており、その項目を列举します。第 1 章：西洋へのまなざし、第 2 章：蘭学事始め、第 3 章：江戸の天文暦術、第 4 章：江戸の地理学、第 5 章：江戸の本草学・博物学、第 6 章：江戸の医学、第 7 章：江戸の数学和算、第 8 章：江戸の化学、第 9 章：江戸の銃砲、第 10 章：江戸のからくり、第 11 章：江戸絵画と科学の眼。各章ともカラー印刷できれいな装丁、解説記事も平易でわかりやすい内容となっています。特に、第 3 章の江戸の天文暦術と第 4 章の江戸の地理学の章であり、観測機器や星図、地図なども詳しく掲載されています。望遠鏡のページでは、製作者が鉄砲鍛冶職人であったことに驚かされました。

(小石川 記)

「仙台と故郷の接点」

埼玉県深谷市 高柳 俊比古

図書館の方から「郷土のかぜ」という資料をいただき、仙台市、または仙台市図書館と私の生まれ育った深谷市について関係することを考えてみました。

仙台市に来た当初、ある会合で各自の出身地の紹介の時に「深谷」と聞いて知っていることは何かありますか、と質問したところ「深谷ねぎ」（野菜）と「ふっからちゃん」（ゆるキャラ）とすぐに出てきて、テレビや新聞に登場している言葉が、第1に浮かぶのだなと思いました。

さて、仙台の主力銀行の1つである七十七銀行は、第七十七国立銀行を前身とする銀行であり、第一国立銀行を創設し、明治・大正時代に500以上の株式会社を設立した渋沢栄一は深谷市出身で、仙台市図書館にも「論語と算盤」他いくつかの本が所蔵されています。

次に、仙台藩主 伊達政宗公も登場する「名将言行録」の著作がある岡谷繁実は、桜の名所としても知られる深谷の清心寺（浄土宗天文18年創建）にお墓があり、「名将言行録」は仙台市図書館の蔵書になっています。一方、同じく蔵書である「群書類従」や「続群書類従」を編纂した塙保己一の生家は、深谷市に隣接する本庄市にあり、私が小学生の頃に親類の人と自転車でその生家を訪れ、末裔の方に保己一の人物像について教えてもらったことがあります。

このように仙台と私の出身地とは、昔からいろいろな接点があるようです。ここ数年、私は“熱いぞ 熊谷！”（深谷市の隣にある）として全国的に知られている高温多湿の埼玉県北部から、避暑を兼ねて、娘の在住する仙台を第二の故郷としてたびたび訪問させてもらっています。市立図書館も人口15万の深谷と比べて、百万都市の仙台は蔵書数といい、閲覧室の環境といい格段の差があります。これからも知識の源泉としての市立図書館を利用させていただき、いつまでも新しいものに挑戦してゆきたいです。

編者注 塙保己一：江戸時代の国学者 延享3年（1746）6月23日生まれ 文政4年（1821）9月12日没 76歳

■ 編集後記

新しい年度が始まりました。私たち郷土担当の中で大きな異動はありませんでしたが、多忙な時期に今回の原稿を執筆していただいた佐々木さんは退職いたしました。新しい職場でのご活躍を期待いたします。

前号でご紹介いたしました傷みの激しかった『仙台市精密案内地誌』の複製化が終了しました。こちらを2冊のファイルにして4階カウンターに置いてありますのでご活用ください。

今年度の事業計画をご紹介します。この「郷土のかぜ」にご執筆いただいた方々、そして郷土の歴史に興味ある方に集まっていただき「研究テーマ」をご紹介します機会を2回ほど計画しています。4階利用者の方から「いつもあの人が来てるけど、どんな調査研究しているんだろうか」という声を聞き、この企画を考えました。詳細が決まりましたら「市政だより」などで広報いたしますので、奮ってご参加ください。

発行：仙台市民図書館 郷土資料コーナー （担当：小石川）
〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1 せんだいメディアテーク内 TEL022-261-1585